2023 優駿エッセイ賞
佳作（GⅢ）
受賞作

サインでV

辻本（つじもと） 隆行（たかゆき）

受賞のことば

権威と歴史ある優駿エッセイ賞で佳作に選んでいただき、舞い上がっております。このエッセイに登場する「サイン馬券ノート」は本当に存在します。このノートを私の遺品の一つだけで終わらせたくないと熱望し、応募させていただきました。ここで紹介させていただいたサイン馬券はアーカイブの一部に過ぎません。残りも世に送り出せるチャンスが訪れ、競馬ファン拡大のお力になれますことを強く願っております！

プロフィール

競馬歴30年の辻本隆行です。趣味は「競馬場へ行くこと」「競馬予想をすること」「競馬中継を見ること」と多趣味です（笑）。40年近く勤めた職場を最近退職し、競馬に特化した物書きを目指して現在修行中です。

２００７年２月18日、私はウインズ道頓堀で１枚の馬券を握りしめていた。当日に行われるフェブラリーＳの、12番サンライズバッカス単勝２万円馬券である。すぐそばに職場の後輩Ｙ君がいた。職場の飲み会で彼が競馬をやることを知り、初めて一緒に競馬をしたのがこの日だ。「先輩、サンライズバッカスはないでしょ」「どうして？」「ずっと連敗し続けてますし、去年のフェブラリーは12着ですよ。ＪＣダートで人気しても見せ場なく負けるし、ＧＩでは勝てない馬なんですよ」彼は得意げに語りかけてきた。自分の考えに自信があると、鼻を膨らませながら喋る癖がある。彼の鼻の穴が心持ち大きく見えた。「いや、密かに自信を持ってるんや。俺はこの馬に懸けている」「じゃあ、その自信とやらを聞かせてください」ちょっと馬鹿にしたようでもあり、納得すれば乗っかることも企んでそうなしたたかな視線が飛んできた。「これや」私は愛読しているその日のスポーツ紙をおもむろに取り出し、１面を彼に見せてやった。なんとそこの見出しには、【十二単】の大きな３文字が鎮座していた。そしてその横には、ちょうど前日に陣内智則と結婚式を行った藤原紀香が、十二単を着て神殿に向かって歩いている写真がデカデカと掲載されていたのだ。「12の単を買えって書いてあるやんか。この絶好サインを見逃してどうするんや」私は意気揚々と彼に言い聞かせてやった。「えっ、先輩そんな予想してるんですか？」彼のしたたかな視線が、少し見下したような視線に切り替わっていた。「神前結婚の三三九度とバッカスという馬名も関連している。まぁ見てろって」かくして発走時刻を迎え、フェブラリーＳのゲートが開いた。４コーナーまで後方に控えていたバッカスが、最後の直線に向くと同時に進出を開始し、ラスト１ハロンで今まで見せたことのない桁違いの末脚を繰り出して圧勝した。ゴール板手前で私は、「のりか～っ」と大声で叫んでいた。大ファンだった紀香を奪われた陣内智則に、私は一矢報いた気がした。私のサイン予想に納得せず、１番人気で惨敗したシーキングザダイヤから流していたＹは呆然と立ち尽くしていた。その夜は落ち込むＹを連れて、ウインズ近くのふぐ料理店でふぐのフルコースをご馳走してやった。ひれ酒を飲んで気分が良くなった私は、偉そうに講釈を垂れた。「競馬は３着までに１頭は意外な馬が入るという自分の法則を持っている。もちろん人気馬３頭で決まることもあるが、伏兵が割り込んで来ることが多い。俺は理詰めの科学的な予想もしっかりやってるが、それだけでは人気馬しか出て来ない。勝つために必須の意外な馬を探すために、サイン予想を採り入れてるんや」Ｙはてっさを食べながら、半信半疑な表情で黙って聞き続けている。「俺はこれまで、サイン馬券を何度も的中させている。人気馬の実力や調子を見抜く目や、激走する穴馬を掘り出す力もない俺の生きる道は、サイン予想の隙間しかない。でもサイン解読能力だけは人に負けない、第一人者と呼ばれたいんや」俺は続けた。「サイン予想なんて邪道や、お前に競馬をやる資格なんかないと足蹴にされたことがある。でも娯楽の競馬には人それぞれの楽しみ方があるやろ。サインが効果を発揮して当たったかどうかなんてどうでもいい。要は、どんな予想手法でも当たればいいんや」更に持論をまくし立てた。「それにサイン読みが当たって獲った時の快感は筆舌に尽くせない。例

えるなら、お見合いパーティーで1番人気の子とマッチングしたような感覚や」「なるほど、今度行きましょうよ」Yはお見合いパーティーの常連らしく、例えが刺さったか。「俺流のサイン解読術を教えたる。前1週間に起きたトピックニュースや時事ネタ・○○の日・第○○回・優勝プレゼンターなどとリンクする馬を、メインレースから探し出すというスタイルや。でも不幸な出来事は対象から外すと自分なりのルールを設けている」下戸のYもひれ酒を付き合い、顔が鯛のように赤くなってきた。「何かキーワードの一部の文字が馬名に含まれてたとか後で指摘する人よくいるけど、あれはコジツケやと思う」心当たりがあるのか、Yの目がふぐのように泳いでいる。「悔しい思い出もある。サイン馬券で有名な２００１年有馬記念や。アメリカ同時多発テロが起きた年の有馬は、マンハッタンカフェとアメリカンボスで決まって大騒ぎとなった。アメリカ馬券と呼ばれて、馬連で５００倍近く付いたやつや。その年の世相を映す有馬やから、当然レース前に色々考えたけど思い付かんかった。けど行きつけの居酒屋の大将が、レース前に閃いたみたいで馬連当てよったんや。求めてもいないのに、その馬券の写真まで見せつけられた。サイン予想の泰斗を自負する俺にとって、超高額サイン馬券で知人に出し抜かれたショックは今も忘れられへん」Yは気を使って涙ぐむような表情をしてくれた。「その悔しさを糧にして、それから頑張ったよ。武勇伝を聞いてくれるか？」美味しいふぐに睨まれて、Yは頷くしかなかった。「2日前にイチローが大リーグシーズン最多安打記録を樹立した２００４年スプリンターズSはイチロー背番号の5→1で決まったが、これを読み切って馬単40倍ゲット。２００５年3月にあった愛・地球博開催記念が緑枠の2頭で決まって馬連20倍ゲット。２００５年の母の日に開催されたＮＨＫマイルＣは、ラインクラフトとデアリングハートの牝馬2頭で決まって馬連ゲット。天皇家の長女紀宮さまが結婚した２００５年にあった天覧競馬の秋天が、14番人気だったヘヴンリー『ロマンス』が勝って複勝ゲット。２００６年の第66回桜花賞は6番人気だったキストゥヘヴンが勝ち、翌週の第66回皐月賞も6番人気メイショウサムソンが勝って共に単勝ゲット。誰も気付かなかったと思うけど、実は桜花賞の全トライアル&ステップレースで6番人気馬が勝つか連対を果たしていたので、これは予告サインだとピンと来たんや」「へぇ～凄いですね」さすがにYも感心した顔で身を乗り出してきた。「今すぐ思い出されへんけどまだまだあって、後からサインに気付いた後悔レースも含めて枚挙にいとまがないって感じや。俺はサイン馬券ノートというのを付けている。これまでにサインが出現したレースを逐一書いて記録に残してあるんや」「マジですか？」驚いたYはてっちりの箸を置いた。「サイン予想の虎の巻にもなり得る世界で1冊だけのサイン史ノートや。サインで決したレースなんてネットで検索しても出てけえへんけど、サイン馬券のデータバンクであるこのノートを紐解くとみんな書いてある。俺には、どこかの競馬紙で自分のコラムを持つという壮大な夢がある。もちろんサイン予想に特化したコラムや。過去のサイン馬券を一つ紹介して、その週のサイン予想をするという構成でいく。その時のためにノートにネタを蓄積してるんや。コラムのタイトルは【サインでV】と決めてある。俺はアブノーマルな異端児やけど、異端児にしかできないことがある。強い馬のファンになって応援することだけが競馬の楽しみではない。競馬にはこういう楽しみ方もあることを広く伝播して、競馬ファンを一人でも多く増やしたい。自分にできることで日本の競馬界を盛り上げていきたいんや」かなり回ってきたYがあくびを繰り返し上体が揺れ出したので、最後にふぐ雑炊を流し込んでお開きとした。Yは帰りの電車で「僕も七夕賞の枠連7―7から始めてみます」と笑った後、気持ち良さそうに鼾をかいて眠りこけてしまったが、最寄りの駅でちゃんと降りたようだ。その年の秋、私はもう一つ勲章を手にした。リーグ優勝した巨人に中日が大逆転勝利でＣＳ優勝を果たした歴史的な日の翌日にあった菊花賞で、1着アサクサキングス大久保『龍』志厩舎・2着アルナスライン和田『竜』二騎手の馬連をズバリ的中させた。ただし大久保厩舎はレース後に気付いたのだが。数年後には、映画で大きな話題があった週にはスクリーンヒーロー産駒が、天体のビッグニュースがあった週にはアドマイヤムーン産駒がよく走るという法則を発見した。以後現在に至るまで、無理やり信者にさせたYと共に、サイン馬券で泣き笑いを繰り返し競馬を謳歌し続けている。この週末もサインというツールを駆使して、馬柱の底に眠る財宝探しに明け暮れるだろう。サインでVを夢見ながら…